“山大が動き出す” 国立大学法人山口大学マニフェスト

新しい波に向かう

大坂　英雄
学長特別補佐

平成15年（2003年）９月末、山口大学は文部科学省に中期目標・中期計画の素案を提出いたしました。全学の意見を伺いながら、また各部局の将来計画を加味しながら、評議会の承認を得て、まとめ上げたものです。

この素案を作り上げる前に、山口大学の理念『発見し･はぐくみ･かたちにする 知の広場』を基本として長期目標を掲げ、理念、決意を３方針と９目標にまとめています。これの具体的中味を６年の期間を設け、中期目標、中期計画として、教育、研究、社会貢献、運営の４分野について整理しています。（図１参照）

発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場

山口大学は、未来をひらく知のありかたを提案するため、まさに今新たな一歩を決意を持って踏み出します。これまでの安定した自由で豊かな社会のなかで、ある面では再考慮が促がされる時にきており、真の人間的な豊かさが求められています。この課題に取り組むために，山口大学は『発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場』を理念として掲げました。

山口大学の目指す21世紀のありかた

『発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場』を目指して、長期目標には理念，決意，方針と目標の３項目にわけて山口大学の思いを託しています。方針として三つあげ、１）学ぶ楽しさを発見し、個性豊かなオンリーワンをはぐくみます。２）研究心をはぐくみ、新たな知の拠点をかたちにします。３）地域社会への貢献をかたちにし、その活動を世界に拡げます。のもとに九つの具体的目標を掲げています。

具体化の中味

山口大学は、大学の理念のもとに、地域の基幹総合大学および世界に開かれた教育研究機関としてその使命を果たすため、基本的目標の達成に全力を注いでいきます。

中期目標・中期計画（素案）の目指すところは、まず教育については、研究に基づいた教育の提供です。これにより、基礎基本の確実な修得、コミュニケーション能力の向上、豊かな人間性を育むとともに、専門知識、技術を修得した高度専門職業人および研究者を育成します。

研究については、総合大学としての多様な学問領域の知識の集積と戦略的研究の推進、教員の評価に基づく重点化分野の強化や人的資源の活用、研究の質の向上と知的財産管理の徹底などに努めます。

社会貢献については、地域に根ざした大学を志向することです。そのため、地域社会のニーズの把握とそこへの迅速な対応、世界で活躍できる人材の養成、特に東アジアとの交流に力を注ぎます。業務運営については、国民の視点に立った説明責任のとれる業務運営に心掛けます。

このため、学長のリーダーシップのもとに自律機能をもった組織を作り、機動的、戦略的な運営により学内資源の再配分に柔軟な運営感覚を取り入れ、全学的に管理運営できるシステムを整備します。

以上の内容は大学全体の問題として取り上げましたが、各部局の計画も参考資料として提出しており、これも当然評価の対象として取り入れられるものと思います。

一方、これらにきちんと対応するためには施設の充実が図られる必要がありますが、他方、法人としての財務管理も問われ、厳格な措置が求められるでしょう。

人による

組織を構成している以上、教

育、研究、運営，施設整備などあらゆる事柄に円滑な運営が求められます。しかも、ある制限内（財務など）でどうするかといったことです。そのため、重点領域や強化すべき領域などを大学全体の立場で戦略的に順位付ける必要が、我々自身に迫られています。

このことは教員組織、事務組織を問わず、縦横、柔軟に対応できる組織作りが必須であることを意味します。全ての組織の浮き沈みは、長い目で見て人事方針の良し悪しに依ります。何が必要な専門分野で，必要な人数は、また、それを活かすための環境、これを整えることが最も喫緊の課題です。

明日がある

組織の効率を上げるためには、何よりも信頼できる人間関係が構築されている必要があります。未来が明るい、努力の結果として明日が輝き活路が見える、とりわけ、若い教職員にとり、働き甲斐のある組織が求められています。

一方、これには個人個人の意識改革に待つところが極めて大きいことも、また確かなことです。互いに心を通わせた仕事を心掛けていきませんか。

図 1

ー「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」をめざしてー

山口大学のめざす 21世紀のありかた	中期目標・中期計画（素案）	
学ぶ楽しさを発見し，個性豊かなオンリーワンへ	社会で活躍できる実践的な教育 ー 研究に立脚した教育の実践 ー	○ 入学から卒業までの一貫した教育支援 ○ 基礎基本の確実な修得，実践的コミュニケーション能力を向上させ，豊かな人間性をはぐくむ ○ 分野における専門知識・技術の基礎的能力をはぐくむ ○ 専門的職業人を養成，高度専門的職業人および研究者をはぐくむ
研究心をはぐくみ，新たな知の拠点形成へ	総合大学としての多様な学問分野の知の集積と戦略的研究の推進	○ 地域の特色や研究者の個性を活かした世界水準の研究の推進と萌芽的研究の育成 ○ 重点化すべき分野へ戦略的に人的資源を活用 ○ 全教員に対して研究評価を行い，学部・研究科等の研究活動の向上 ○ 知的財産の取得・活用・管理体制の強化
地域社会への貢献を かたちにし，その活動を世界へ	地域に根ざした交流，身近な貢献	○ 地域社会のニーズに対し的確，迅速に対応する体制の整備 ○ 世界で活躍する人材の育成 ○ 東アジアとの教育研究上の交流の推進 ○ 地域に密着した高度の医療の提供

法人化で激変する会計制度

坂手　恭介
学長特別補佐

会計制度の変更

国立大学法人の財務会計制度は従来の国立大学の会計制度から激変します。

国立大学法人山口大学（以下法人）は国からの出資（現物出資）を受けて山口大学を設置することになるので、法人の「資本金」が新たに確定します。この資本金は土地、建物、工作物等の時価評価額であり流動性の高い現金等の資金ではありません。

私たちは法人が設置した山口大学において、これらの土地建物等を活用して①教育研究②学生支援③受託・共同研究④公開講座⑤研究成果の普及と活用促進等の業務を行い、成果をあげることが期待されています。現金のストックをもって事業運営にあたる企業経営とは異なります。

これらの業務を実施するには多額の資金が必要ですが、支出項目としては①管理的経費②教育的経費③研究経費④人件費⑤診療経費⑥学内共同利用施設運営費等があげられます。この資金需要を担う収入項目としては①授業料等の学生納付金②寄付金、受託・共同研究費等の外部資金③附属病院収入④運営費交付金⑤施設費補助金等があげられます。

収支のバランスは全て法人の責任に帰すので財務の健全性には特段の注意を払わねばなりません。特に、運営費交付金は国から直接措置されるもので、国の財政方針や法人の中期目標達成度評価如何で左右されることから、財務の弾力性にも注意を払わねばなりません。

財務会計制度

法人は、毎事業年度終了後（3月31日）3ヵ月以内に財務諸表を文部科学大臣に提出し、承認を受けなければなりません（準用「独立行政法人通則法」（以下通則法）第38条）が、ここでいう財務諸表とは、文部科学省で定めるところにより、原則として企業会計原則による。と規定されています。具体的には「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」（平成16年3月に文部科学省令で指定されますが、現在のところ平成15年3月に中間報告が示されています。）に従って作成される以下の諸表をさしています。

(1) 貸借対照表
(2) 損益計算書
(3) キャッシュ・フロー計算書
(4) 利益の処分又は損失の処理に関する書類
(5) 国立大学法人業務実施コスト計算書
(6) 附属明細書

法人は、上記の財務諸表を監事及び会計監査人（文部科学大臣が任命）の監査を受け、その意見を添えて文部科学大臣に承認を求めますが、文部科学省は承認に先立って文部科学省令による評価委員会の意見を聴かなければならない、とされています。

会計セグメントと予算

山口大学では、管理と開示の目的から15のセグメントを組織区分し、その下部単位として38の会計単位、102の計算単位（附属病院は検討中）を設定しています。

財務諸表はセグメント別に作成され開示されますので予算制度もそれに従って年度計画（＝予算編成）、業務実施（＝予算執行）、決算、監査もセグメントを単位に施行されます。ここでいう年度計画は平成16年4月1日から始まる中期6年間を年次別に分割したもので、最終年度（平成21年度）の決算書の承認時に残余利益（積立金）または繰越欠損の最終処理方法が中期目標達成状況とともに総合的に判断されます。（国立大学法人法第32条、準用通則法第45条）

一般の事業法人と異なり、主たる業務内容が教育・研究ですから「利益ゼロ」か「若干の収支残余」を保ちつつ、教育研究の質の改善、社会への貢献、業務運営の改善と効率化を達成し、それを目に見える形で示すことが求められています。

山口大学では従来の使途別の費目＝予算という狭義予算概念に加えて、組織承認された計画＝予算という広義予算概念を導入します。自己収入（入学料、授業料、病院収入等）と運営費交付金及び外部資金等を財源として人件費を含めた全経費を対象とする大学運営が要請されるからです。同時に、財務内容の開示と運用状況の説明により国民に対するアカウンタビリティを果たさねばなりません。

従って、部局等（セグメント）においては、自らの責任における予算の執行と成果の創出、それに対する説明責任が発生することに留意する必要があります。

誇りと情熱を持とう

河合　伸也
学長特別補佐

公務員から非公務員へ

現在、山口大学の教職員は国家公務員ですが、平成16年４月１日からは国家公務員ではなくなり、法人である国立大学法人山口大学の教職員になります。この法人の教職員になるということが、山口大学の教職員（現在約2000人が山口大学で働いています）にとって、法人化による大きな変化です。

これまで、国と教職員の関係は、公務員関係という一方的な任命関係にありました。これからは、国立大学法人山口大学と教職員は労働契約関係になります。したがって、これからは、契約関係にしたがって権利義務の関係が発生します。

そのため、労働条件も、基本的には就業規則の定めるところによるとともに、法人と労働者である教職員間で結ばれる労使協定や労働協約によって定められることになりますので、昨年末から今年にかけて、本学の構成員の意見を聞きながら、国立大学法人山口大学就業規則を作成しつつあるところです。

定員管理から人件費管理へ

これまで、大学には「教授ポスト」「課長ポスト」等、国によって決められた「定員」という枠があり、基本的にはその枠内で教職員を採用するというシステムでした。法人になりますと「定員」という考え方がなくなり、今後は教職員を学校で自由に採用できるが、自前（授業料等や運営費交付金の範囲内）で教職員の給料を払うというシステムに変わります。

どのくらい教職員を採用・確保するかということがこれからの大学にとってもっとも重要な課題になるということです。本学では、大学における教育、研究、診療を計画的に行うために、全学的な観点から人事計画を定め、それに基づいて職員配置数を定めることにしています。

「大学は人なり！」

法人化になりますと、賃金や労働時間等の労働条件は、法人の目標・計画に沿って自由に定めることができることになります。

もっとも、これまで大学には長い間、使われてきた人事制度があり、それを急に変更することは問題もあり可能でもありません。当面は、現行の人事制度を基本的に移行させ、今後、本学の定めた目標・計画に則って慎重に検討し、見直していくことになります。

今後の新制度は、何よりも教職員が動きやすく、最大限に能力を発揮できるようなものでなければならないと考えています。例えば、教職員の関心事であります賃金については、基本的には教職員の仕事をきちんと評価して賃金に結びつけることが急務ですが、いずれにしろ、評価は大変難しい課題であり、とりわけ教員の場合には、研究、教育、社会貢献及び大学運営の評価システムを如何に体系的に作り上げるかという難しい問題があります。

これからの山口大学を法人化後大きく飛躍させるためには、私は「大学は人なり」だと考えています。教育も研究も大学運営も人の力が全てです。これからは、地域の人々の協力も得つつ、教職員が力を合わせ、新しい山口大学を作りましょう。みんなが誇りと情熱をもって志の高い山口大学をめざしましょう。

世界に発信する「国際化」

宮本　文穂
工学部　知能情報システム工学科　教授

はじめに

山口県は江戸末期の変革期に長州藩として広く海外に目を向け、教育レベル向上に力を注ぐ環境を整えた結果、吉田松陰、他の多くの広い視野と先駆的な考え方を持った指導者を育てた歴史を有していることは周知の事実です。

例えば、明治維新時のイギリス留学で多くの成果をあげた「長州５傑」(注) と言われるほどの人材を輩出しており、昨年がロンドン留学140周年記念の年にあたります。

「国立大学法人　山口大学」における国際学術交流の基本的な理念・目標は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」のもと、グローバル化を念頭に置いた魅力あるオンリーワンを目指し、異文化を超越した学術研究の架け橋の役割を果たすことを柱とするものです。

すなわち、上述のような山口県の歴史や地域の特色を生かし、「世界、アジア、地域社会と密着しながら科学技術と社会科学、倫理・哲学などとを融合させ、感銘を与える研究、教育拠点を創成し、世界へと発信する」国際化を目標とするものです。

国際化の理念と目標実現までの道のり

図１は、今後の「国立大学法人山口大学」における国際化の促進にあたって必要と考える全般的な事柄をフローで示したものです。以下、図１の流れに従って、“START” から始まる各項に説明を加えてみます。

①～③：学内教官に積極的に呼びかけ、国際会議の主催、招待講演、座長を可能な限り多く引き受けてもらい、これを規範としてさらに発展させます。そのために、(財)山口大学教育研究後援財団などを積極的に利用できるようにし、これを推進する必要があります。

また、外部資金による国際共同研究を相互に企画し、順次拡大していくことによって学部間、大学間学術交流協定に積極的に発展させることも必要です。一方、これらの企画、成果を HP、マスメディアなどを複合的に利用することによって世界に発信します。このような施策によって上昇スパイラルに持っていくことが可能です。

④～⑦：山口県の歴史や地域の特色を生かし、オンリーワンを目指した教育・研究の国際貢献・交流においては、とにかく他に類のない「感銘を与える授業拠点」、「魅力のある研究拠点」を目指すことが必要と考えます。すなわち、教育面では、教職員一丸となった英語による授業の実施、日本学術振興会、JICA などを通じた海外大学との交流（派遣、受入れ）と教育における日本のハイテク技術（インターネットとハイテク機器の組合せなど）を駆使し、国際基準に準拠した教育手法の確立によって相手国の学生に感銘を与え、日本への留学を第一義に考える学生を多く育てる戦略を立てることが重要となります。

一方、研究面においては、国際的な学会誌に可能な限り多くの論文を発表することはもちろんですが、国際交流施設などのハード面のみならず学生ボランティア、セキュリティーサービスの充実などを通じてソフト面を充実させ、後継者の育成と魅力のある研究拠点とすることによって外国人研究者の受け入れ、国際共同研究を大幅に推進し、多くの大学との学術交流協定の締結に結びつけていくことが重要です。

このため、以下の施策を講じる必要があると考えられます。

[教育面]

1）国際的に質の高い教育システムを導入することによって、山口大学における国際的な教育面の貢献と交流を実現し、発展させることを目標とします。

2）国際的なレベルの教育は研究と相補性があり切り離せません。国内外的に質の高い魅力ある研究教育環境が外国からの山口大学との提携に関心を与え、それにより留学生や研究生のみならず研究者の来訪が増加して、結果的に教育面に及ぼす影響が大きくなることを目指します。

（注）長州５傑
初代首相の伊藤博文、外相を務めた井上　馨、鉄道を設置した井上　勝、通貨制度を確立した遠藤謹助、工学の父と云われる山尾庸三です。

3）大学構成員の教員の教育レベル向上のため、海外の教育プログラムの定期的な受講、及び海外の大学への留学（特に若手）を積極的に進めることが不可欠と考えます。

このため、主に国際交流協定のある大学・学部・研究室間において、教員と留学生らの交流を積極的に進めることを目指します。

4）UMAP（アジア太平洋大学交流機構）に参加し、各国の大学との単位互換を共通の基準で行うと共に、学部間、大学間学術交流協定の締結を図る必要があります。さらに、これらの情報をHP等を利用して日本国内や世界に発信することも必要です。

以下に考えられる具体的項目を列挙します。

教育面の国際貢献：全世界、特に東アジアの国際貢献的な海外教育拠点としての活動を計画します。

・日本学術振興会・JICA等への協力等の教育面における連携の促進と交流活動の協力を行う予定です。

・発展途上国協力のために教員の海外派遣を促進し、希望教員への待遇を改善する施策（留守中の授業などのフォローアップ体制など）を大学として考える必要があります。

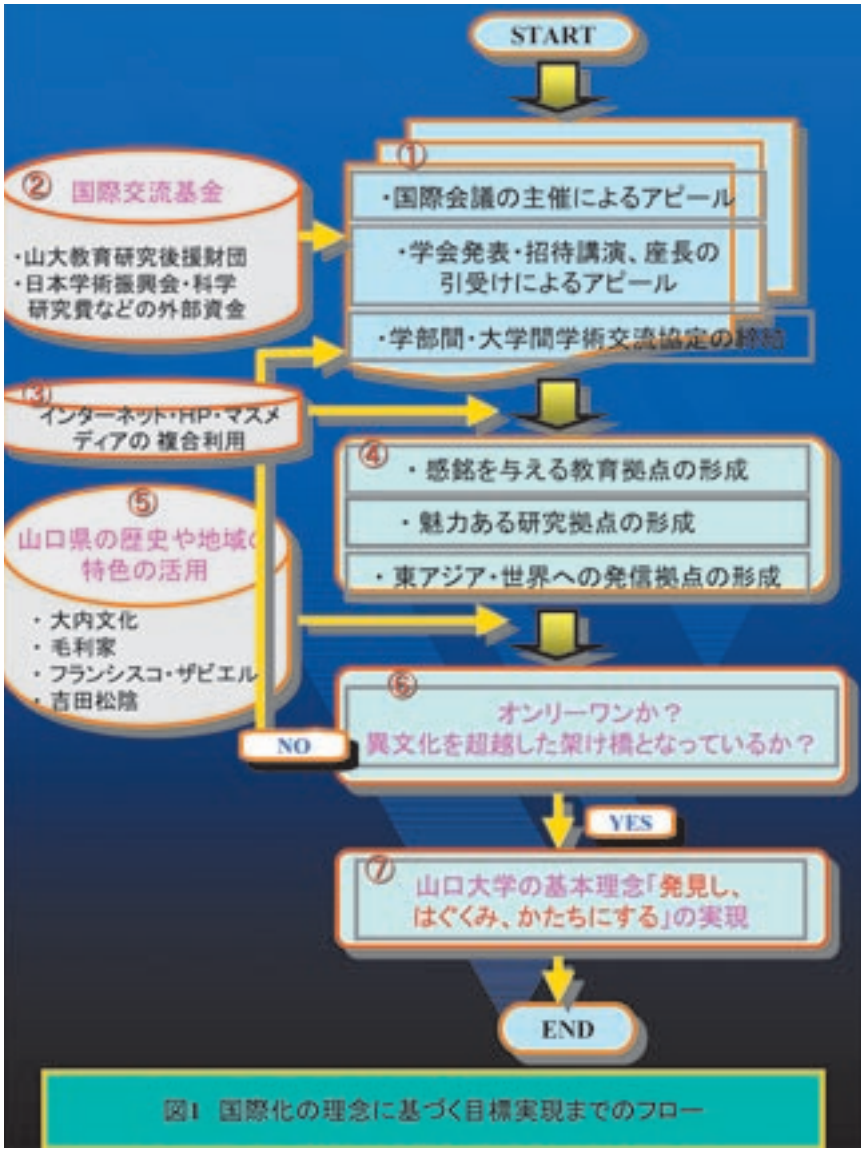


図1 国際化の理念に基づく目標実現までのフロー

教育面の国際交流：全世界、特に東アジアの国際センター的な海外教育交流拠点としての活動を行います。

・外国人教員を、各学部数人以上配置し、中期目標内に10校以上の外国大学等との学術交流協定を締結する予定です。

・多くの研究者と学生を受け入れる国際交流会館の増築と大学会館の施設の国際化、AV施設の設置を中期目標内に実施する予定です。地域の経営者に留学生の宿舎貸与の基準見直し（敷金・権利金免除）を要請するなど、多数の留学生の受入れを容易にする予定です。

・留学生センターと部局との連携を強化し、国際学術交流事業も別途充実して、多数の外国人の受入れを積極的に推進する予定です。

・留学生の帰国後におけるアフターケアを財政的に支援し、充実する予定です。

・一般と特定国間の奨学金と山口大学教育研究後援財団による国際交流の財政支援を充実する予定です。

[研究面]

1）世界に開かれた大学として、多方面に渉って国際的な水準の学術研究を追及し、そこで獲得された知的情報を積極的な国際交流を通じて人類共通の財産として提供します。

2）山口大学として主体的に大学の教育研究活動を世界に向けて発信するための取り組みを支援する体制を確立します。

3）東アジア・地域社会と密着しながら科学技術と社会科学、倫理・哲学などとを融合させ、感

銘を与える研究、教育拠点の創成を目指します。

上記の実現のため、外国の大学・研究機関との連携・交流を進めるとともに、外国人研究者及び留学生の受入れを推進する予定です。また、学内の国際化を目指し、外国人教員を積極的に採用する一方、教職員及び学生の海外派遣のための制度及び資金面での支援体制を整備する予定です。

以下に考えられる具体的項目を列挙します。

人的・知的交流

・留学生および外国人研究者の積極的な受入れ
・教職員および学生の海外派遣、学会発表・海外研修の支援体制整備
・国際共同研究の推進
・国際会議、国際シンポジウム、招待講演会の開催
・日本学術振興会等による交流活動への積極的な協力

交流のための基盤整備・支援

・海外の大学・研究機関との学術交流協定締結の推進
・大学独自の国際交流基金設置の推進
・積極的な外国人教員の採用

情報収集・発信・広報活動

・インターネット等メディアや学術誌を利用した国際的な学術情報の収集と発信機構の整備

施設設備

・山口大学を訪問する外国人研究者や留学生が、住居など生活面での不安を感じることなく、学術交流や研究、学習に集中できるよう、現在ある留学生センターや国際交流会館の設備をよりいっそう整備し、きめ細かいサービスを提供する予定です。
・これらの施設に、日本人学生が国際交流の楽しさを体験できる場を提供する機能を持たせる予定です。
・現存のメディア基盤センター、図書館、大学会館等施設についても、国際交流・国際貢献を促進するための設備の充実を図る予定です。
・外国からの訪問者に強い感銘を与えるような魅力あるキャンパスづくりに努めます。

学術交流支援

・国際交流会館や図書館の専用コーナーにおける、留学生用図書類や情報機器類などの設備を充実する予定です。その際、本学の特色である、東アジア地域との密接な交流関係に配慮した整備を行います。
・図書館の24時間利用の機能を一層充実させる予定です。
・大学会館について、国際的な学術会議等を行うための設備を拡充する予定です。
・学内施設の諸表示に、英語など外国語の表記を併記する予定です。
・施設・設備の円滑な共同利用体制の整備充実を図る予定です。

シンボルづくり

・キャンパス、特に庭園の整備にあたって、大内文化や明治維新など、山口独自の歴史や伝統文化に触れられるような施設の設置、また、それらを強くイメージしたシンボルづくりを盛り込む必要があります。

おわりに

関東、関西などの大都市に比べて、山口県は地理的条件、国際的な施設面などでは一見、国際化は難しいのではないかと考えられます。しかし、長州５傑を輩出した経緯を見ると、要は発想と実行の問題であると考えられます。

日本のみならず世界の社会情勢が大きな変革期にさしかかっているこの時期に、「国立大学法人 山口大学」をさらに飛躍させ、地域の発展に寄与する規範を示すためにも、山口県の歴史に学び、山口県の特色を生かした熱い思いの企画が必要と考えます。

その結果、ともすれば山口県から離れがちな若者、学生に将来を見据えた大きな夢を与え、山口を起点にして国内外に情報を発信できる元気な環境を我々の手で整備することが、当面実行可能な企画の一つと考えました。

すなわち、地元の大学として「感銘を与える人物」、「魅力的な人材」に育てあげることによって、逆に日本全国、世界各国からの来訪、注目の絶えない「国立大学法人 山口大学」にしたいと考えています。このような熱い思いを十分ご理解いただき、是非前向きにご協力の程よろしくお願い申し上げます。

TOPICS

第6回運営諮問会議

法人化後の国際交流、地域貢献活動に方向性示す

重本　隆之　総務部企画室企画係長

第２期第６回山口大学運営諮問会議が11月25日、事務局特別小会議室において開催されました。

会議では、平成16年４月以降の法人化に伴い、学内の組織体制について、学長から３人の学長特別補佐の説明がありました。法人化対応の全般的な責任者として、現工学部長の大坂教授、財務関係については経済学部坂手評議員、人事・労務・制度関係については元医学部附属病院長の河合教授が紹介されました。

続いて、９月末に文部科学省へ提出済みの「山口大学中期目標・中期計画（素案）」について、大学での取りまとめから提出に至るまでの経緯について、藤井目標評価副部会長から説明がありました。

松野議長（右）と各委員

次に、法人化後の山口大学の組織等について「国立大学法人 山口大学の制度」を基に審議が行われました。審議に先立ち、平野副学長（制度設計部会長）から、制度設計に基づいて大学の規則（案）作りに当たっての考え方や進捗状況及び財務会計制度の説明がありました。委員からは、全体の組織として担当副学長制を契機とした指揮系列のあり方などについて意見交換が行われました。

また、今回は、「山口大学の国際交流等の課題」と「山口大学の地域貢献活動」について諮問事項として取り上げられ、本学における国際学術交流、国際連携、国際戦略と地域貢献活動の現状等について丸本副学長から説明がありました。

その後、委員から、国際交流関係では、山口大学の特徴として東アジアに重点を置くことについての考え方や留学生の宿泊施設など日常生活の支援方法等について意見が交わされました。また、地域貢献活動については、今年度文部科学省で採択された地域貢献特別支援事業の各プロジェクトの実施方法等の方向性、あるべき姿などの貴重な意見が多数寄せられました。

法人化を審議する第６回運営諮問会議

なお、次回の運営諮問会議は、平成16年３月16日（火）に開催することが決まりました。

議事要旨は、本学のホームページで公開します。アドレスは次のとおりです。

http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kikaku/top.htm

TOPICS

国 際 交 流

韓国外国語大学校と協定締結

岡崎　房述　国際企画課長

韓国外国語大学校は、外国語教育と国際地域研究のための大学として1954年に設立されたが、その後、現在に至るまでに、人文学、社会科学、理工学分野まで含め、韓国の国際化教育と高度の研究で先端的役割を果たす総合大学となっている。

本学との連携・交流は、大学院東アジア研究科が平成14年12月中旬から平成15年３月中旬にかけて、同大学の金勝鎭（キム・スンジン）教授を客員教授として招聘したことに始まる。同教授は、同研究科での授業を担当され、博士課程学生の指導及び同研究科・経済学部での研究教育を通じて、本学の質と伝統に強い印象を持って帰国された。これを契機に同教授の尽力により、両大学の学術交流協定を締結する準備が整った。

そして、平成15年12月２日、本学から学長代理として丸本副学長ほか関係者（藤井評議員：経済学部長代理、松井講座主任：東アジア研究科長代理、横田教授：東アジア経済、野澤経済学部・東アジア研究科事務長、岡崎国際企画課長）が韓国外国語大学校を訪問し、大学間学術交流協定と学生交流に係る附属書を締結することとなった。

この協定締結により、今後は経済学部や東アジア研究科を始めとして、社会科学や人文、理工学分野にわたる全学的な共同研究、更には既に交流実績があり今回の訪韓の際に表敬訪問した仁荷大学校を含めた多様な研究領域と幅広い研究者・学生交流の展開が期待されている。

韓国外国語大学校との学術交流協定締結記念

就職活動交流会開催

就職活動を先輩から学ぼう！

平尾　元彦　学生支援センター　助教授

「就職活動を先輩から学ぼう」を合言葉に、11月29日（土）、就職活動交流会が吉田キャンパスで開催されました。大学生協学生委員会メンバーによる実行委員会（委員長：糸井麻美・人文学部３年）が主催し、就職活動を終えた４年生・修士２年生10人に協力いただいて実施したものです。

15時から開催された第一部は、経済学部C201教室で３人の先輩からの体験報告。「自分と同じ志望業種の友人をつくるとよい」「東京へは湯田温泉から夜行バスで費用節約」「OB・OG訪問で一歩踏み込んだ志望動機を」「夢と目標、そして熱意を持って」などの活動ノウハウと熱いメッセージをいただきました。

質問ラッシュ

続いて、食堂ボーノに移動しての第二部は、５人程度のグループに分かれて各テーブルに先輩１人が着席してのディスカッション。20分たった

TOPICS

ら先輩が次のテーブルへと移動する方法を３ラウンド。３人の先輩方と話をしました。学生たちは、山口大学の先輩の就職活動に興味津々。質問がでなかったらどうしようとの当初の不安はすぐに吹き飛び、後輩からの質問ラッシュに先輩方は自分の体験を丁寧に答えていました。そして第三部は懇親会。グラス片手に先輩との話の続きや、はじめて出会う同級生との会話を楽しむ姿が印象的でした。

参加した学生からは「就職活動に何が重要なのかがよくわかった」「ほかの学部の先輩の話をきくことができ良かった」といった声や、「自己分析の方法を教えてもらった」「就活ノートをつくろう」など先輩からのアドバイスをさっそく役立てている様子でした。交流会に協力した４年生からは、「自分も何もわからなかったので昨年こういう会があったら参加したかった」「３年生の積極的な姿勢をたのもしく思った」「１年生が参加してるのにはびっくりした」などの感想をいただきました。

会の終わりに、先輩方から提供いただいた就職活動本を引き継いで、これからの就職活動での健闘を誓い合いました。

学生自ら手づくり

山口大学では、はじめて開催した就職活動交流会。「いろんな先輩の話をききたいね～」からはじまったこの企画も、大学生協のバックアップのもと、学生の手づくりの会として開催することができました。自分より１学年あるいは数年上の先輩の話は身近であり、かつ、リアルに学生の心に刻み込まれていくようでした。閉会挨拶のあと、携帯電話の番号を教えあう学生たちの姿があちこちと。とてもよい交流の機会になったと思います。最後に、実行委員の皆さん、お疲れさまでした。

OB・OG訪問は重要、と体験報告する４回生（第一部）

質問ラッシュのディスカッション（第二部）

「がんばろう」と乾杯（第三部）

就職活動交流会に集まった学生たち

TOPICS

新医師臨床研修制度の必修化

赤ひげ先生誕生

廣政　登　医学部総務課専門職員（卒後臨床研修担当）

今年度まで、医師国家試験合格後、大学病院又は厚生労働大臣の指定する病院において２年以上臨床研修を受けることが努力義務とされていましたが、平成12年の医師法等の改正により、平成16年４月から必修となります。

患者さんの身になって

医学・医療技術の飛躍的な進歩により、臨床医の専門分化が進んでおり、患者を全人的に診ることのできる基本的な臨床能力を身につけることの重要性と医師の患者さんに対する説明不足が多くの国民、関係者から指摘されました。

また、国民の求めている医師像は、「患者さんの身になり、自己を犠牲にして清貧に甘んじ、献身的に診療に当たる」いわゆる“赤ひげ先生”のような医師を想定しているようです。現代において、実現することはたいへん難しい問題を多く含んでいますが本学に医師を育てることを目的とする医学部を設置している限り、国民の求める“赤ひげ先生”の精神を実現できるよう最大限の努力が必要です。

基本的な考え方

臨床研修は、医師が、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけることを目的としています。

具体的には、２年間で、一般内科、一般外科、救急部門（麻酔科を含む）、小児科、産婦人科、精神科、地域保健・医療の７分野を研修します。このことにより、専門分化が進んだために風邪の診療もできない医師がいるという国民からの非難を解消することが期待できます。

マッチングによる研修医の採用

医学部を卒業して臨床研修を受けようとする者（研修希望者）と、臨床研修を行う病院（研修病院）の研修プログラムとを一定の規則に従い、コンピューターを使用して、効率的、かつ透明性を確保して組み合わせるためのシステムをマッチングと言います。今年10月に実施した結果、募集定員83人に対して採用予定者数は66人でした。このことは、全国国公立50大学病院中第14位（マッチ率：定員の充足率）でした。

研修方法（研修プログラム：別記１）

研修医の臨床研修の指導は、山口大学病院と県内９つの臨床研修協力病院（別記２）と46の臨床研修協力施設（別記３）が一つの研修プログラム（３コース）に基づき２年間、各研修病院・施設の指導医により臨床研修が実施されます。

目　標

この研修プログラムを研修医が忠実に実行すれば“赤ひげ先生”の精神は、活かされると考えます。

そのために、各研修病院関係者は、新医師臨床研修制度の基本的な考え方・目的を達成すべく具体策について準備中です。将来的には、山口県の医療を担ってくれる優秀な研修医を育てたいと考えています。

別記１：研修方法（Ａ、Ｂ、Ｃコース）

		0M	12M	24M
Ａコース	オリエンテーション	山大病院 （一般内科６ヵ月、一般外科３ヵ月、救急部門（麻酔科を含む）３ヵ月）	協力病院 （小児科１ヵ月、産婦人科１ヵ月、精神科１ヵ月、地域保健・医療１ヵ月、選択科８ヶ月）	
Ｂコース		協力病院 （小児科１ヵ月、産婦人科１ヵ月、精神科１ヵ月、地域保健・医療１ヵ月、選択科８ヵ月）	山大病院 （一般内科６ヵ月、一般外科３ヵ月、救急部門（麻酔科を含む）３ヵ月）	
Ｃコース		山大病院 （一般内科６ヵ月、一般外科３ヵ月、救急部門（麻酔科を含む）３ヵ月）	山大病院 （一般内科６ヵ月、一般外科３ヵ月、救急部門（麻酔科を含む）３ヵ月）	

図に示された診療科（部）の研修順序は各研修医により異なる。

別記２：臨床研修協力病院（９病院）

国立下関病院、済生会下関総合病院、労働福祉事業団山口労災病院、宇部興産株式会社中央病院、済生会山口総合病院、山口県立中央病院、綜合病院社会保険徳山中央病院、山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院、下関市立中央病院

別記３：臨床研修協力施設（46施設）

山口県宇部・柳井環境保健所、下関保健所、山口県赤十字血液センター、医療法人茜会昭和病院、医療法人博愛会宇部記念病院、医療法人恵愛会柳井病院、愛命会　泉原病院、山口県立病院静和荘、県内各診療所（本郷村診療所他）、国立療養所山陽病院、医療法人若草会小郡まきはら病院、医療法人下関病院、開業医（宇部市荒木眼科他）　他

山口大学英会話（上級・海外）研修報告

リジャイナ大学短期集中ESLプログラムに参加して

上田　政洋　工学部工作センター

私は、今年の夏、カナダのサスカチュウワン州の州都リジャイナにあるリジャイナ大学ESL語学研修センターで約４週間語学留学をしました。事務局人事課の伊東明美さん、山口大学学生16人、都留文科大学学生20人、九州大学学生１人、大谷大学学生１人の合計40人からなる ESL プログラムへの参加です。ホームステイをしながら大学に通い、授業、アクティビティ、プレゼンテーションの練習、Homework と様々なことをこなしていく充実した学生生活を送りました。昨年参加された方と同様、私と伊東さんには、語学研修とは別にリジャイナ大学職員に職務内容等を質問する課題がありました。私の課題に関しては、山口大学技術部技術報告集（第４巻）に掲載していますので、そちらを読んで戴ければ幸いです。

前号で、大まかな内容は伊東さんが報告されたと思いますので、私はこれを読まれている皆さんが留学した気分を味わえるように、また、英語に不安を抱えたまま語学留学し、楽しんで帰ってきた私が得たことを交えながら書きたいと思います。

TOPICS

不安・緊張感がいっぱい

私は、語学留学は初めてで、留学生センターの渡辺先生、赤木先生から様々な情報は入ってくるものの、何から手をつけて良いのかわからず時間だけが過ぎ、渡航準備を始めたのは２週間前からでした。ホストファミリーに渡すお土産だけはしっかり準備し、肝心の英語は勉強しないまま不安な状態でリジャイナに向かいました。

今回は、SARS の影響で、関西空港からデトロイト、ミネアポリスとアメリカ経由でリジャイナ空港に着きました。夜遅く到着すると ESL のアジア担当の永井栄子さん（通称　ペコ）、ホストファミリーたちが出迎えてくれました。ホストファミリーの車内では、フライト時間は？　どんなルートできたの？等を質問され、私は答えられず沈黙状態で家に到着しました。その後、部屋に案内され、やっと到着した安堵感、これからどうしていこうという不安感・緊張感が入り交じり、ボーとしていました。

初級クラスの大学生活

通学方法は、乗り放題のバスチケットを渡されているのでバスで通う人、私のように自転車を借りて通う人がいました。初日は、日本語禁止の誓約書にサインをし、クラス分けをするテストをしました。

テストは、会話問題、過去形問題等が出題されました。例えば、「何種類か会話している絵が示され１つを選択後、どういうやりとりをしているのか答える」「動作を行っている絵が示され、過去形で答える」等がありました。その中で、動詞＋ed が付く基本的な過去形はわかりましたが、変化する過去形は、私が単に勉強していなかったため、わかりづらかったです。

ホストファミリーの Don ＆ Bonnie夫妻と一緒に
筆者（左端）

その結果、私は Awesome class（初級）になり、私を含めて14人の生徒は、初級クラス担当のエイドリアン先生に教わることになりました。授業は、午前中だけで９時から始まり、カナダの通貨に始まりカナダの先住民や文化等について、プリントと会話を交えながら、もちろん全て英語で行われました。

私は、授業中先生が何を話しているのかわかりませんでしたが、先生の表情や口元を見ながら話を聞いていると、先生が何を言おうとしているのかニュアンス的にわかる部分があり、それが日増しに多くなってきました。昼食は、私の場合は前日の夜にサンドイッチを作ったものでした。昼食時は CP（カンバセーションパートナー）と会話を行うことによって、会話の練習ができました。

午後は、CP たちと体を動かしながら英語を学んでいきました。私たちの悩み相談を引き受けてくれるのがペコさんで、リジャイナでは頼りになる人でした。１週間の目標、出来事を日記に書きペコさんに提出、後日赤ペンでアドバイスが書かれたものが返ってきて、心機一転することもありました。

ホームステイとホストファミリー

ホストブラザーのヒロ
（日本人留学生）と楽しむ

ホームステイは、最初、体が慣れないせいか体調を崩しましたが、持参した日本の薬で何とか治りました。朝食はコーンフレーク、夕食は肉、野菜料理とデザートまであり、日本では考えられない食事でした。

ホストファミリーには、当たり外れがあると言われていますが、私がお世話になった Don＆Bonnie夫婦は大当たりでした。過去数年間の内に30数人の留学生を受け入れているベテランのホストで、私が行ったときもちょうど日本人留学生のヒロさん（ホストブラザーと言います）がいました。

最初の頃、Don＆Bonnie との夕食時、何を話し

TOPICS

てよいのかわからず黙々と料理を食べ、ヒロさんとDon&Bonnieの話に耳を傾けているだけでした。また、クラスメートや周りの人が上手に英語を話しているのを目の当たりにし、英語が出来ない自分自身が情けなく悔しくて、部屋で一人涙したこともありました。そんな時に、ヒロさんが、「日本人は英語を怖がっているし、英語が分からないのは当然。1週間もすれば耳が慣れてくるよ。」と声をかけてくれました。

その言葉通りに、大学の授業はもちろん、Don&Bonnieとの会話でも日に日に聞き取れるようになりました。私の英語がDon&Bonnieの考えていたものより上達していたので、彼らは驚いていました。そんなDon&Bonnieに親戚の結婚式に出席させてもらったり、フットボールを観戦したり、ファームに連れていってもらったりと有意義に生活することが出来ました。

充実した語学研修

私が言えるのは、短期集中の語学留学は、飽きが来なく充実した英語の勉強・留学生活が送れ、ホームシックにかからず、良い体験をすることができるということです。その反面、英語を忘れるのが早いと思います。しかし、私が一番皆さんにお伝えしたいことは、このリジャイナ大学の短期集中ESLプログラムは、全スタッフが教育されており、非常に充実した語学研修が過ごせることは間違いないということです。機会があれば、是非参加して、自分自身で実感して戴きたいと思います。

最後に、英語ができなかった私がこんなに楽しく、素晴らしい語学留学が出来たのも山口大学留学生センターの先生方、リジャイナ大学ESLセンターの先生方、その他大勢の人々が支えて下さったお陰だと思っています。

筆者（左）MasaとKenの担当だったCPのDave

参加者全員勢揃い

TOPICS

海外派遣SD研修報告その1

ハワイ大学でのSD研修

森山　健一　施設部　設備課　電気係

海外派遣SD（スタッフ・ディベロップメント）研修は、（財）山口大学教育研究後援財団「教職員海外派遣助成事業」の一つで、現在従事している職務に関連する業務について研修を行い、派遣先の大学の管理運営方法等を学習することを目的としています。法人化を控えた今、私は海外の施設部はどのような仕事をしているかということに興味を持ち、この研修に参加させていただきました。

研修は昨年の12月２日から４日までの３日間行われ、あらかじめ提出していた事項について、担当者から説明をしていただくというものでした。

組織の違い

私が感じた大きな違いは、施設整備をしていく組織、仕組みの部分です。分かりやすくするために、山大の場合について少し説明します。各学部で起こる照明がつかないとかエアコンの不具合などの修理は、会計センターを通じて外部の業者に修理してもらっています。また、部屋の間仕切り変更などの少額工事は施設部で設計、積算をして、入札により施工業者を決め工事を行っています。

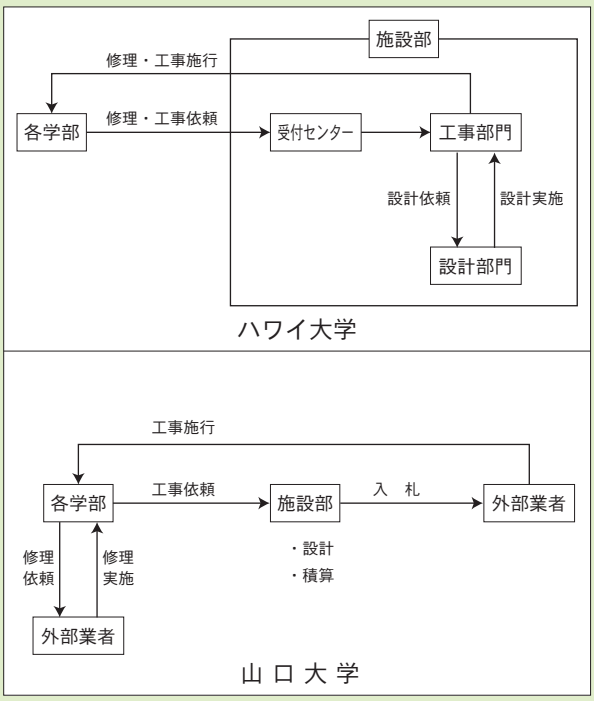
では、ハワイ大学はどのようにしているかというと、施設部内に受付センターと設計部門、工事部門があります。ハワイ大学内で起こる、電源増設や間仕切り変更等の施設に関わる全ての修理、少額工事依頼は受付センターに寄せられます。そこから、修理、工事内容の書かれた伝票が工事部門にまわされ、設計の必要がないものは工事部門ですぐ対応されます。そうでないものは、設計部門にて図面を書いたあと、工事部門にて施工されます。つまり、施設部内に大工、配線工、配管工などの職人が存在しているということです。

学内のいたるところにある緊急用電話（赤電話）

今後の課題

これらの組織の違いから、次のことが考えられます。

ハワイ大学では工事部門があるため少額工事は入札を行っておらず、概算は計算するものの細かい積算や、入札に関わる事務手続きの必要がありません。ゆえに、施設部の本来の仕事である将来のキャンパス計画や省エネルギー対策、ファシリティーマネージメントに力を注ぐことができます。また、修理への対応も素早くできるため、学生の方に迷惑をかけることも減ります。



施設部の方とともに（中央が筆者）

ワイキキビーチを背に

今までは、法によって組織は自由に決められませんでしたが、法人化後は柔軟にできるようになると思いますので、ハワイ大学のようにできると望ましいと思います。ただ、修理、少額工事を外部にまかせた場合の工事費と内部に職人をかかえたときの人件費を比べたとき、工事費より人件費が高くなってしまっては意味がないので、その辺が今後の課題だと思います。

この研修に参加したことにより、施設部の在り方が一つではないことを知り、大変勉強になりました。今はまだ、与えられた仕事をこなすのが精一杯ですが、将来の施設部が大学に対して何ができるかということを考えながら仕事をしていこうと思います。

海外派遣SD研修報告その2

SD研修に参加して

木越　みち　附属図書館工学部分館情報管理係

去る12月１日～７日、(財)山口大学教育研究後援財団からの助成により、SD（スタッフディベロップメント）研修でハワイ大学を訪問しました。SD研修とは、山口大学が提携している海外の大学間学術交流協定校において、現在の自分の職務に関連する職務について研修を行うというもので、今回が初めての試みでした。ハワイ大学はオアフ島に６キャンパス、ハワイ島に2キャンパス、マウイ島とカウアイ島にそれぞれ1キャンパスを持つ総合大学で、学生総数は45,000人です。今回訪れたのはそのうち最も規模の大きいオアフ島のハワイ大学マノア校でした。

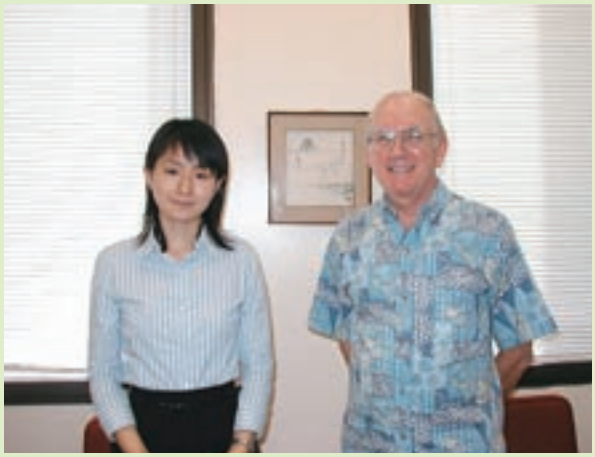
蔵書は山大の二倍

研修内容については事前に希望内容をハワイ大学の担当者に伝えました。私の場合、マノア校に二つある図書館の見学とそれぞれ専門の違う図書館スタッフ（計10人）へのインタビューを３日間に渡って行いましたが、自分の希望に添った形で研修内容を決められた点は大変良かったと思います。

私がお話を伺った方々は皆さん親切で、こちらのつたない英語での質問にも一つ一つ真摯に答えて下さいました。二つある図書館のうちメインの図書館であるHamilton Libraryは１階あたりの敷地面積がアメフトのフィールドと同じ広さという５階建ての建物で、蔵書数が320万冊と山大図書館の約２倍ありながら館内はかなり広々としていました。

この図書館の大きな特徴は、アジアコレクションとハワイ・太平洋コレクションを擁していることでしょうか。アジアコレクションの中には日本

TOPICS



アジアコレクション責任者の Allen Reidy氏と

Hamilton Library

に関するものも多く、日本のジャーナリストから寄贈されたという60年代の学生運動で東大の学生が集会を呼びかけたビラなんてものも多数保存されていました。

ハワイ・太平洋コレクションではハワイに関する図書の他にも写真や民族衣装なども展示されていました。またコレクションの電子化も進んでおり、ハワイの伝統音楽などの音声データと共にホームページ上で公開する試みも始まっています。

印象に残った「Mission」

ハワイ大学は大学の Mission（任務、使命）として「アジア太平洋地域に根ざした研究」を掲げているので、図書館のこれらのコレクションも大学の Mission に関わりが深いものだと思います。この「Mission」という言葉も今回の研修で印象深かったものの一つです。大学や図書館などの各部局がそれぞれの Mission を掲げてホームページ上で公開しているのは、日本の大学の「中期目標・中期計画」に似ていますが、ハワイ大学（そしておそらく多くのアメリカの大学）の場合、図書館なら図書館の各係単位にまで文章化されたそれぞれの Mission があり、毎年その達成度や今後の目標について公開しています。

また個人レベルでは、職員の採用の際にその人がどのような Mission を持っているかが重要だそうです。個人が持っている Mission が大学の Mission と何らかの関わりを持っていることが採用の際の大きなポイントとなるそうです。この自分の役割や使命に関する意識の高さには感心しました。

このほか図書館の仕事に関わる部分については改めて2004年３月発行の「山口大学附属図書館報」（No.69）で報告させていただく予定です。ご興味のある方はご一読下さい。

今回の研修では、語学力の不足から意思疎通が難しい場面があるなど大変なこともありましたが、実りの多い充実した研修でした。今後このSD研修がさらに発展した形で継続し、多くの職員の方が参加されることを願います。

TOPICS

交換留学での経験

アメリカで抱いた夢と、抱かなかった夢

宮川　英之　人文学部言語文化学科言語情報論コース４年

私は人文学部の派遣留学生として、2002年８月からの９ヵ月間、米国Oklahoma州にあるOklahoma大学へと交換留学をさせていただきました。アメリカでの記憶は、思い出してみると辛かったことばかり、でも今は平穏な日本での生活を犠牲にしてでももう一度あの日々に戻りたいと思っています。

2001年10月30日、人文学部一階の掲示板で派遣留学生選考の合格の通知を見てからは、毎日が英語漬けの日々でした。アメリカ CNN やイギリス BBC テレビ、NHK のビジネス英会話と英語ニュースはほぼ毎日のように聞いていました。

しかしいつになっても英語が伸びません。TOEIC（国際標準の能力テスト）を受験しても思うような点数は出ずに不安は募るばかり、自分の意志で志願した留学なのだが、先輩方の体験記にあったような、留学が近づくにつれてのワクワクした気持ちとは程遠く、不安以外の何物でもない感情でした。

そんな私に追い討ちをかけたのは、VISA取得の際のトラブル。書類上のことは早め早めに正確にこなしていたのですが、Oklahoma大学側の不手際により VISA取得が大幅に遅れ、予定していた８月17日の渡航に間に合わないかもしれないという状況でした。

影響を受けたのは人文学部から派遣された私ともう一人の女子学生で、幸いにも最悪の事態は免れることができましたが、ただ今後留学される方に言えることは、アメリカの大学は担当ごとに Office が細かく分かれており、しかもそれらに必ずしもうまく連携が取れていないのです。したがってそれぞれの Office に自分から確認のメールや電話を入れることをお勧めしたい。特にお金のことは慎重に対処していただきたい。実際私も帰国して二ヵ月以上経つ今でも、いまだ解決できていないことがあります。

そして迎えた2002年８月17日、不安は頂点に達したまま成田空港を出発し、Oklahoma City Airport へと到着しました。そこから帰国までの間はまるで怒涛のように過ぎていきました。長いようで短いなんて言わない、本当に長かった。それは辛くも充実した長い夢を見ていたような時間、本当に長く素晴らしい夢を見せていただいたような気がします。

Japan Night でのパフォーマンス

豊かな自然・施設の大学

大学は豊かな自然に囲まれた Oklahoma州 Norman にある州立総合大学、多くの施設にも恵まれていました。プールや体育館、トレーニングルームや音楽室まで、学生IDさえ持っていれば誰でもタダ同然で使用することができ、私も少なからずその恩恵にあずかりました。

授業では、専門分野（言語音声学）と英語力の更なる発展を目指していた後半の Spring Semester（春学期）に対し、最初の Fall Semester(秋学期) では専門の勉強というよりも英語をまず正しく聞き取り、会話をするということが何よりも大きな課題でした。英語が分からないと授業も宿題もテストのことも何も分からないのです。授業の後に先生に尋ねに行くということもしばしばでした。

しかし10月くらいだったでしょうか、突然耳にはまっていた耳栓が抜けたように英語が聞き取れるようになった瞬間がありました。もちろん急に

TOPICS

全てが聞き取れるようになったわけではありませんが、長い間探し求めていたものが少しだけ、自分のものになった気がしました。そしてその頃と時を同じくして、多くの友達に恵まれ出したのを記憶しています。

当時部屋を共に借りていたのはフランス人２人とオーストリア人と私の４人であり、彼らを始め友達の多くは意外にもヨーロッパ系や特にアジア系が多かったです。同じ外国人としてアメリカに渡って勉強や人間関係に苦労した同士として分かり合える部分も多かったのです。日本では考えられないほどオープンなアパートの空間では、夜中でも鍵をかけることはなかったのではないかと思うくらい常に誰かが出入りしていました。ハローウィンや誰かの誕生パーティー以外にも、他の部屋の人を招いて、もしくは招かれてのホームパーティーも頻繁にありました。

学期中は単調

学期中の生活は単調を極めました。アメリカは日本と違い、同じ授業科目が１週間に２回（火・木）もしくは３回（月・水・金）あるため、今日あった授業はまたすぐ明後日にあるという感覚です。その膨大な量の予習やクイズ（小テスト）の準備をこなすためには、ほぼ毎晩のように午前２時まで開いている図書館に入り浸り、それでも勉強が終わらない時は24時間365日学生に開放しているOklahoma Memorial Union（学生会館）で徹夜をするということもしばしばでした。

ただ金曜や土曜の夜はみなそれぞれにリラックスしていました。私も友達と映画を見に行ったりバス（市内均一¢25）でモールに買い物に行ったり、車で州都のOklahoma Cityまで連れて行ってもらったりしました。また、先に述べたような各種パーティーに参加したりもしました。その他、毎年恒例で各国主催のCultural Night(国の文化紹介のようなイベント）も行われます。移民大国アメリカらしい行事で、それぞれの国の食文化や芸術を味わうことができるというものです。

私が参加、または出席したのはアジア全体の文化を紹介するAsian Night、アラブ地域のArabian Night、China Night、Japan Night、そしてEve of Nations（万国祭）でした。また希望する交換留学生にはホストファミリーの紹介もしていただくことができました。そこにホームステイをすることはありませんでしたが、こちらの都合や大きな行事に折を見ては食事に誘っていただきました。

各学期の後半、特にFinal Weekと呼ばれる期末試験期間中は、図書館もその地下にあるSTARBUCKS COFFEEも１週間24時間フル稼動となり、夜中にもかかわらず多くの学生で込み合っていました。そんな生活の中で、長期休暇はまさに安らぎの時でした。

大きな休暇のアメリカ発見

私が過ごしたFall SemesterとSpring Semester期間での大きな休暇と言えばThanksgiving Break（感謝祭）、Winter Break、そしてSpring Breakがある。その期間はNormanキャンパスやアパートの中は日常では考えられないくらい寂しくがらんとしています。みんな旅行に出

Texas旅行

かけるからです。アメリカ人はそれぞれの家族のところへ、外国人はアメリカの他の地域へと。

我々は祖国から一人遠く離れたアメリカへ来る決意をした人間ばかり、長期の休暇にアパートでのんびりしているはずなどないのです。私はThanksgivingにはアジア人の友達とTexas州のDallasとHoustonへ。Winter Breakには一人でSan Franciscoへ、Spring Breakには熊本の実家から一人でアメリカまで来てくれた母に会いにNew Yorkへ、とアメリカを飛び回りました。

４月には山大から留学している日本人だけ４人でTexas州ArlingtonへNew York Yankeesの松井選手のゲームを見にいき、そのままAustinやSan Antonioという大都市へ、日本の面積の２倍近くもあるというTexasの大地を週末を使って２泊３日、レンタカーで駆け抜けるという大胆な旅行もしました。毎日ハードスケジュールの中での束の間の休息、しかし留学先での旅行はただの骨休めではなく、自分なりのアメリカを発見するためには何よりも価値のあることでした。

言うまでもなく自分たちが生活し、学んだNorman, Oklahomaだけがアメリカの素顔ではないはずです。それを実際に体感できるという楽しみが、旅行にはあります。Houstonのスラム街で潰れた店先で座り込む男性も、New Yorkの五番街で初春の３月に毛布に包まって眠るホームレスも、クリスマスのSan Franciscoで日本人目当ての詐欺まがいの募金活動をしていたサンタクロース姿に扮した黒人も、みんな今のアメリカを映した肖像なのです。

しかしここで、「ではアメリカって何だろう？」と考えてみてもすぐには答えられません。多くの時間をかけ、多くの移民が入っては出て行く中で形成されるアメリカの姿は常に動いているからです。それは一つにネイティブのアメリカ人だけがアメリカを築き上げるのではないという共通の理念があるからではないかと思います。

確かにアメリカ人は何においても自分たちが一番だと思っています。しかしどんな形にせよアメリカで暮らしている以上、彼らにとっては私たちもれっきとしたアメリカを形づくっていく“Brother”の一員であり、そういう私たちも含めて、アメリカはNo.1にこだわるべく新しい呼吸を求めているのです。

４カ国で寿司パーティー

自分を犠牲にできる勇気

この留学を通じてアメリカで得たものは何であったか、と考える時、いつも思い出すことがあります。それは大切な人だと思える人に対し、自分を犠牲にできる勇気を諭してもらった時のことです。

私は今年の１月の半ば過ぎにインフルエンザにかかりました。親元を遠く離れての地での闘病がいかに辛いかということは想像に難くありません。私が経験したのは体温41℃で２時間待ちという大学附属病院での地獄のような時間でした。ようやくたどり着いた診察室では医師や看護婦に病態を聞かれるのですが、今にも倒れそうで言葉も出ないほどの状態の中、しかも英語での専門用語や状況説明など容易であるはずもありません。

やっとの思いで容態を説明しても、アメリカの病院は日本と違い、患者が１ヵ所に留まり看護婦が検査のために動き回るというシステムではなく、患者自らが歩き回り、それぞれの検査を自分の足で歩いて受けに行かなくてはなりません。その度に担当の医師が変わるため、そのつどまた一から説明をしなくてはなりませんでした。極めつけは出された薬。その大きさや色にも驚きましたが、最も驚いたのがその効力でした。一粒飲んだだけで熱は２時間で４℃も下がったのです。

しかしそんな薬でインフルエンザが簡単に治るわけもなく、そこから１週間の地道な闘病が始まりました。この時ばかりはさすがに本気で日本に帰りたいと思いました。そこで見たのが何にも換え難い同志たちの友情でした。フランスのルームメイトたちは私のことはあまり気にせず部屋で騒がしくすることが多かったのですが、そんな中、励ましのカードを書いてくれたり、交代で看病に

きてくれて氷を買って来てタオルを冷やしてくれたり食事を作ってくれました。本当に命を救われたと今でも思っています。

日本にいると普段はあまり見向きもしないおかゆや梅干が、千金に値するものでした。彼らの中には忙しい勉強や授業までも休んで看病してくれる友達もいて、「もし自分だったらここまでできるだろうか？」とその時から強く感じるようになりました。

実際に日本に帰って来た今、自分の中であの時の体験がどう活きているかは明白であり、今後の人生においても忘れられない出来事になるはずです。日本にいたら小さなことでも、それと同じことを異国で経験することは、日本でのそれとは全く違ったように見え、感じられる。そういう状況で出会った国際人同士が手を取り合い、助け合えるということを感じた喜びは、もう一度アメリカに帰りたいと思わせる程へと膨れ上がり、その決意は日に日に大きくなっています。

毎日が苦労の連続

その他ここに書ききれていないいくつかの辛い経験もありました。そのようなことは留学を決めた時から負うことになっていた宿命に過ぎないのだと今は思っています。同時に「もう一度行って99の辛い経験からまた１だけ成長させてもらおうか。」と強く感じるのです。

次に留学を希望される方に言いたいのは、とにかく毎日が苦労の連続という覚悟。そして肝に銘じておいてほしいことは、単にアメリカに留学すれば英語が自由に操れるようになるというものではないということです。アメリカという環境で英語に関してはやればやるだけ上達は早い。身の回りが全て英語、眠りに落ちる直前の昏睡状態でも会話は英語、夢も英語、そして寝言でさえも英語なのです。

終わりに、この手記ではあえて甘言は避けさせてもらいました。輝かしい言葉だけで収まるほど留学は甘いものではありません。そこにあるのは今後の自分の人生に大きくプラスとなる何かであることに間違いありません。今後はこの経験で感じた関係者の方々への感謝を忘れることなく、次のアメリカ大学院という目標へと努力していくつもりです。

専門音声学のクラス

TOPICS

山大が動き出す３!!

山口大学VI（ビジュアルアイデンティティ）プロジェクト
広報活動専門委員会

シンボルマーク・カラー決定

１月中旬、新しいシンボルマーク・カラーが正式に決まり、発表されました。９月以降から決定に至るまでの過程をお伝えします。

１．ブランドプロミス「まっすぐ山口大学」

これまでの調査を踏まえて、具体的な提案の段階に入りました。９月にはVI作りを進める上でのスローガンともいうべきブランドプロミスの設定を行いました。

ブランドプロミスとはコンセプトよりも一歩積極性を持たせた言葉で、大学が対象とする人々に具体的な約束を提示するものです。「まっすぐ山口大学」はこれまでの大学の歴史や資産を継承し、急激な目先の変化はせずに進みますという考えから生まれました。この言葉は大きな目標である大学の理念へ向けてのスローガンです。

２．オープンプレゼンテーション開催

11月には第１段階として10数案のデザインがデザイン会社から示されました。11月２日の学園祭では地域の方や学生に意見を聞くアンケートを実施しました。11月12日にはＳＣＳ教室を使い、担当デザイナーによるオープンプレゼンテーションを行いました。50人近くの学生・教職員の参加があり、デザイナーによる10数案の説明のあと、意見交換が行われました。

様々な意見が出され、今後の選定やマークの展開案作成に役立つ内容のものもありました。学生が自分で書けるようなシンプルなものがよい、学生はざん新なものを期待している、身近に使う衣類や道具に入れて使えるもの、などが代表的なものです。また、これまでこのような活動があることを知らなかったという声も多くあり、今後の積極的な学内広報の必要性を考えさせるものでした。

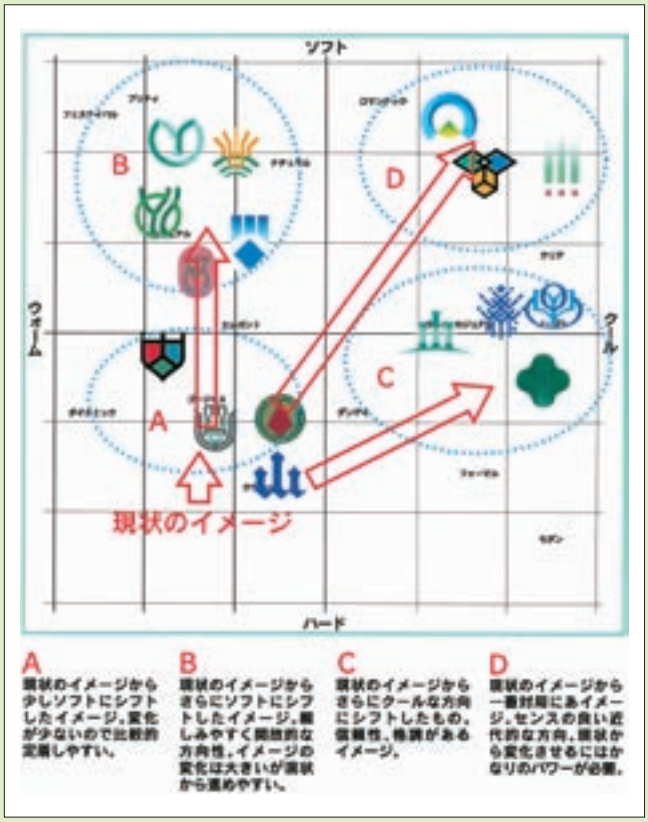
３．3案に絞り込み

12月に入りプロジェクトのメンバー間で10数案から３案に絞り込む作業を行いました。その際、どうしても感覚的なことであり、意見のまとまりを見つけることが困難なため、次に示すイメージスケールマップで意見のまとめを行いながら進めました。このマップはハード・ソフト軸とクール・ウォーム軸で構成されその中に感覚的な形容詞の位置が示されているものです。あくまでも相対的なものでデザインのイメージをまとめる際よく使われる手法です。マークの形を形容する言葉を選び出し、その言葉の位置にマークを置いていったものがこの図です。山口大学の現状は伝統的、重厚といった形容詞が属する左下のハード・ウォームゾーンと考えられ、今後はナチュラ

学園祭でのアンケート

TOPICS

ル、カジュアル、親しみやすいといった形容詞が属する左上のソフト・ウォームゾーンの方向を目指すことに設定しました。そしてそのゾーンに属するマークに絞り込みました。この中から２案、字体をマークにした案を１案選び３案としました。



4．シンボルマーク・カラーの選定

カラーはグリーン系とブルー系にしぼり込み、三つのマーク案にそれぞれ対応した色彩案をデザイナーに提示してもらい、その中から１案の選定を行いました。こまかい形や色の調整、１色の場合、２色の場合等の展開例、名刺、封筒、パンフレットなどへの使用例を見ながら、１案を選定しました。

広報活動専門委員会で選定した案は１月13日の広報委員会及び評議会で承認され、大学の新しいシンボルマーク・カラーとして発表されました。平成16年４月１日からこれまでの標章にかわって山口大学の顔になります。

5．発表します。シンボルマーク・カラー

●シンボルマークの意味

未来をまっすぐに見据えた顔を表現しています。それはまた、個性を大切にした教育・研究を育む学問の芽であり、世界に向って大きく開いていくイメージを意味しています。

●シンボルカラーの意味

メインカラーがピーコックグリーン、サブカラーが若葉色です。自然をイメージさせるグリーンを基調として、大学の実直さと安心感を表現しています。

私の授業

野外巡検

金折　裕司　教授
理学部化学・地球科学科
地球科学講座

“じゅんけん”？

ある朝、山歩きの格好をしてリュックを背負いながら、大学へ向かって歩いていたときに、友人に出会いました。その友人は町には似つかわしくない格好を見て、「これからどこへいくの？」と儀礼的に尋ねました。私は、「これから学生と一緒に“巡検”へいくところです。」と答えたところ、友人は「“じゅんけん”？　それは大変ですね。夜の見回りは冷えるでしょう！」と言ってくれました。私は「・・・」で、友人と別れました。

広辞苑で【巡検】を引くと、「巡回してしらべること。巡察。」とあります。その後の次に、【巡検使】（じゅんけんし）とあり、その意味は、「鎌倉幕府の臨時の職名。将軍・執権の命により、地頭の非法、豊凶など、指定された地方の実情を調査した者」と書かれています。したがって、“巡検”の語源は古く鎌倉時代にさかのぼるのではないかと勝手に想像しています。

地球科学の分野では、何人かのグループで野外観察にでかけることを野外巡検といいます。また、地球科学コースでは、２年次に通年の授業科目（必修２単位）として“野外巡検”を開講しています。

ワーキング and ウォーキング

“野外巡検”の授業は、地球科学講座のフィールド系教官が６人で担当しています。土、日曜日や夏休みを利用して、日帰り旅行や体験合宿を組み合わせ、山口県内もしくはその周辺地域に出かけ、代表的な岩石や地層、断層の露頭を観察したり、大規模な自然開発現場を観察したりします。ちなみに、平成15年度のメニューは以下の通りでした。

- ●宇部市丸尾海岸：蛇紋メランジェの観察と岩盤スケッチの実習
- ●油谷半島の第三紀層地すべり：地すべりの露頭観察
- ●美祢層群と大田層群：美祢層群と大田層群の地質観察とルートマップ実習
- ●花崗岩と粘土鉱床（大道土）：秋穂町～山口・防府市に分布する広島花崗岩に伴う地下資源、ペグマタイト、花崗岩の風化と萩焼原料粘土ができるまでの観察
- ●須佐－高山地域の地質：阿武層群、須佐層群、高山斑れい岩、山島火山岩の地質と岩石
- ●玖珂層群：玖珂層群の地質観察
- ●下郷断層の地形および露頭観察とトレンチ見学：小郡町下郷の活断層露頭とトレンチ発掘現場の観察

フィールドワーク事始

ほとんどの学生は野外巡検の授業で初めて、実際に地層や岩石、断層の露頭に手を触れ、本格的なフィールドワークを体験することになります。最初は露頭の前で何をしたらよいのかわからず右往左往したり、地層や岩石をおっかなびっくり触ったりしています。ところが、野外巡検も回を重ねるごとに、観察するポイントを的確に把握し、露頭から自然現象を読み取る洞察力がついていくのがわかります。

この授業を通じて、地球科学現象に直接触れた時の学生の目の輝きは忘れることができません。

学内連絡先
TEL/FAX：083－933－5753
E-mail：kanaori@yamaguchi-u.ac.jp

山口県大津郡油谷町に建設中の阿惣ダムの工事現場で（後列左から３番目が筆者）

私の研究

ヨーロッパの農業政策

豊　嘉哲　講師
経済学部国際経済学科

貿易自由化と農業補助金

最近、新聞の経済面を見るとFTAという言葉がよく掲載されています。これは自由貿易協定のことで、「貿易されるモノやサービスに対して、貿易を規制するような措置を設けたり、公的な支援を与えたりすることをやめましょう」という協定です。ただし、特定の貿易品目についてだけFTAを結ぶということは認められていません。FTAを結ぶのであれば、貿易されるほぼすべての品目について、FTAが適用されなくてはなりません。

日本がFTAを結ぶ場合に問題となるのが、農業部門と工業部門の対立です。日本の工業部門は輸出を増やしたいので多くの国とFTAを結びたいという立場です。それに対して、農業部門は、FTAが締結されると農業補助金が減らされる可能性が高いので、FTAに反対です。この対立をどのようにして解消するか、より具体的には、農業補助金を今後どのように改革するか、が近年の大きなテーマになっています。

私の研究対象であるEU（European Union、ヨーロッパ15カ国の連合体）も、1990年代前半に同様の経験をしました。GATTウルグアイ・ラウンドという貿易自由化交渉の場で、EUは農業補助金を削減しなければ工業部門は貿易自由化のメリットを享受できないという状況に立たされたのです。これ以降、EUでは農業補助金の支出方式が徐々に変更されています。EUの農業保護のあり方を、私は研究しています。

EUの農業保護

日本と同じく、多額の農業補助金を支出しているEUでは、どのような形態で補助金が支出されているのでしょうか。EUの農業政策である共通農業政策（CAP）では、農産物価格を高く設定し、その価格で公的機関が農産物を買い上げていました。この方式の弊害は、膨大な農業補助金が必要になるということです。しかも、EU外からEUに農産物を輸出することが非常に困難だったため、EUの農業政策に対して外国から非難の声が上がっていました。このような点をGATTウルグアイ・ラウンドで批判されたため、EUの農業保護のあり方は変更されつつあります。

どのような変更がなされているかを一言で表せば、「価格政策から構造政策へ」となります。つまり、農産物価格を高めに設定することですべての農家を同じように保護するのではなく、農産物価格を引き下げると同時に、山間部の農家や過疎地域の農家など、不利な条件で農業生産を行っている人々を優先的に支援しようという枠組みに変わりつつあります。

中東欧諸国のEU加盟とCAP

さて、2004年、中東欧諸国10ヵ国がが新たにEUに加盟する予定です。これはCAPに対してどのような影響を与えることになるでしょうか。この問題を考える上でのポイントは、新たにEUに加盟する国々の経済は農業に依存する度合いが高く、しかも農産物価格がそれほど高くないという点にあります。この点からわかるように、EU新規加盟国は多額の農業補助金を受け取ることになります。これは現加盟国にとっては由々しき事態です。

というのは、新規加盟国の経済水準が現EU加盟国のそれに比べて大幅に低いために、新規加盟によってEU予算が拡大することが期待できない以上、現加盟国の農業補助金受取額が減少してしまうからです。このような事態を少しでも和らげるために実施されたのが、先に述べた「価格政策から構造政策へ」というCAPの政策変更です。つまり、価格設定を低くすることで新規加盟国の農家に自動的に移転される補助金を減らし、現加盟国内の農家に対して構造政策という名目で支出される補助金を確保したということです。

おわりに

EUの農業政策が策定される過程は、事実上、EUの農業予算をどの国がどれだけ獲得するかという問題を扱う過程です。そうであるがゆえに、CAPにおける交渉は、各国の利害が対立し、複雑を極めますが、研究対象として非常に興味深いものです。

学内連絡先
TEL：083-933-5539
E-mail：yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

腸の運動と病気

佐藤晃一　助教授
農学部獣医学科
家畜薬理学講座

消化管運動

全ての動物は外部の栄養分を取り込むために、消化器官を備えています。取り込んだ栄養分を細かくし、消化して生体内へ取り込んで、最終的にさらに細かい分子にして利用しています。動物には、食道、胃、小腸、盲腸、大腸、直腸があり、各消化器はそれぞれが異なる機能を担っています。腸はまるでベルトコンベアーのように働き、消化管の内容物を外部に向かって動かしていきます。

このベルトコンベアーの機能を持つために、腸はダイナミックな動きをする必要がありますが、そのモーターとなるのが消化管平滑筋です。消化管平滑筋の研究は、近年急速に進歩しました。収縮は、細胞内へ流入したカルシウムがカルモジュリンと結合しミオシン軽鎖キナーゼを活性化することで、ミオシン軽鎖をリン酸化して起こることが明らかとなりました。このような基本的な収縮機構以外にも、消化管運動を制御する神経から放出されたアセチルコリンは、少ないカルシウムで効率よく大きな収縮は発生させる、カルシウム感受性増加機構を活性化することもわかってきました。

私の研究は「なぜ平滑筋が収縮するのだろう？」と言う生理的な面からスタートしました。この研究を行う上で、収縮運動と細胞内カルシウム濃度を同時に測定する必要が生じたため、fura-2というカルシウム蛍光指示薬を使った同時測定法を開発し、カルシウム感受性増加機構について発表しましたが、この論文は多くの研究者に引用して頂き現在では270回を越える引用件数となっています。

腸の病気と消化管運動

このようなダイナミックな消化管の動きは、ちょっとした環境の変化で滞ってしまい、下痢や便秘となってしまいます。風邪などでしばらく寝込んだあとや、年をとりベッドに寝たきりになった時、胃腸の病気にかかって消化管が炎症を起こした時、あるいは健康だけど食物繊維が足りなくなった時などいろいろな原因があるのですが、私が現在取り組んでいるのは、炎症性腸疾患という病気にかかった時の消化管の運動についてです。

炎症性腸疾患とは、狭義では人の慢性炎症性腸疾患を指しますが、広義には各種原因により、または原因不明で消化管に炎症が起こった状態を指します。このような炎症性腸疾患になると消化管の運動は悪くなり、腸の内容物は停滞し腸内環境が悪化し、その結果下痢や便秘を繰り返してしまいます。消化管の重要な仕事に一つには、体内に取り込んだ悪い物を排出するということがあるのですが、その機能が破綻してしまうわけです。しかし、どうして腸の運動が悪くなるのか、詳しいことはわかっていません。原因が明らかになり、腸の運動を改善する手段がわかれば、この疾患の治療に役立つと考えられます。

なぜ腸の動きが悪くなるのか

当初から予想していたことですが、この数年間研究してわかってきたことは、腸の動きが悪くなる原因は一つではないということです。そこには様々な細胞が関与し、いくつかの機序が関わっています。例えば、消化管の筋層に常時存在するマクロファージが活性化をうけ、周囲の神経や平滑筋細胞に影響を与えていること。また、平滑筋自身の機能が変化し、細胞内へカルシウムが入りにくくなることで収縮が抑制されること。さらには、アセチルコリンなどによる収縮のカルシウム感受性増加機構に関係する細胞内の分子が減少することなどです。これらの機構が、同時にまたは病気の進行とともに現れることで、腸の運動が阻害されていることがわかってきました。

これからの目的

動物の世界でも炎症を伴う多くの腸炎があります。畜産業では細菌感染による牛のヨーネ病が大きな問題となっています。これは慢性肉芽腫性腸炎ですが、炎症性腸疾患と同じように下痢や便の停滞を起こします。このような疾患にかかると牛はいくら食べても大きくならないわけです。また、犬や猫などの小動物では特発性炎症性腸疾患といった人の炎症性腸疾患に類似する疾患が増加しつつありますが、まだその原因はわかっていません。このように人だけでなく多くの動物にも炎症性腸疾患があり、それをどのようにケアしていくかが大きな問題となっています。もちろん、腸の動きが改善されただけでこれらの病気が完治するわけではありませんが、この研究による新しい切り口から開発された薬により、少しでも病状が改善されることを目指して研究を進めています。

学内連絡先
TEL：083-933-5905
E-mail：k-sato@yamaguchi-u.ac.jp

教官著作書の紹介

『暮らしの中の民俗学』1～3

新谷尚紀・波平恵美子・湯川洋司編著（吉川弘文館2003年刊）

本書は、民俗学の方法とその研究蓄積を生かしながら、現在の暮らしの意味や質を読み取ろうとして、「一日」、「一年」、「一生」という３つの時間軸に沿って各８テーマを選定し編集した論集です。

「一日」では、「あいさつ」に始まり、「装い」、「夜」など、日常的な振る舞いに蓄積された暮らしの知恵と工夫を探っています。「一年」は私が主に責任を負った巻ですが、一年の時間に即して暮らしのリズムを形づくってきた「正月」や「盆」、「稼ぎ」、「休日」、「旅と観光」などを通して現代社会を捉え直そうとしています。3冊目の「一生」は、「妊娠と出産」、「子どもの世界」、「性・恋愛・結婚」、「病気・治療・健康」、「老い」、「死と葬送」などを取り上げ、生きていくための方法と意味の問い直しを図っています。

内容は身近なことがらを扱っていますので、自らの日常生活に引きつけながら読んでいただければ幸いです。

湯川洋司　教授　人文学部人文社会学科社会情報学講座
TEL：083－933－5279　E-mail yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

「登龍門の夢－知られざる中国大学受験の実態－」

何建明著　何暁毅・梁蕾訳（白帝社　2003年９月）

本書は中国でセンセーションを巻き起こした『中国高考報告』というノンフィクションの編訳。

元著者は自分の足で全中国数十の高校の数え切れない受験生、先生及び受験生の保護者を取材し、二年がかりで書き下ろした。

中国はいまでも毎年一千数百万人の若者が受験する。しかし入学できるのは受験者の数パーセントしかいない。本書はまず現在の中国人の大学に対する夢、執拗なまでのこだわり、或いはコンプレックスとも言えるような思惟傾向を経験者の口を通じて克明に記録した。それから毎年七月の全国統一試験に向けての各学校の信じられないほどのやり方を紹介。続いて受験する若者は成功するための血塗れの努力と希望・失望、及びそれに関わる人々の行動、それから保護者、学校、社会などからの圧力に喘ぐ受験生の狂う精神面を深く掘り下げ、保護者が子供の受験を成功させるための痛々しい努力を描写。人々の大学の夢及び学歴社会の隙をねらっての様々な珍商売：参考書の出版、塾の繁栄、偽学歴証明書の氾濫、大学入学を誘い文句の詐欺など、所謂闇の部分をも遠慮することなく暴露した。

たくさんの事実は日本人にとって不思議でしかたがないだろう。中国の単純のようで、複雑な全国統一入学試験制度は、実は公平の仮面を被っての、民主主義社会の人にはとうてい信じられないほど差別に満ちたものである。

作者何建明氏はいま中国最も有名なノンフィクション作家で、現在は中国で最も影響のある「中国作家」大型文芸月刊誌（中国作家協会主宰）の副編集長。その作品の殆どは中国でいわゆる「陰暗面」（社会のマイナス部分）を暴露している。

原作は漢字30万ほどの超大作である。本書はその一部を新たに構成し、翻訳したものである。

何暁毅　助教授　大学教育センター
TEL：083－933－5065
E-mail：hexiaoyi@yamaguchi-u.ac.jp

宮本教授

中村助教授

平成15年度　ハイテクシンポジウム論文集

(Proceedings of High Technology Symposium in Yamaguchi 2003)

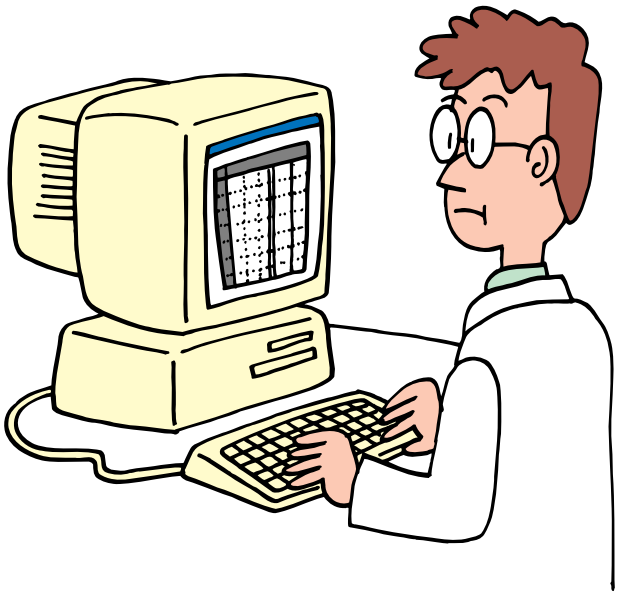
宮本文穂（工学部教授）・中村秀明（工学部助教授）編（山口大学工学部知能情報システム工学科発刊）

産業革命以来の技術革新として、デジタル革命の波が産業界に押し寄せている。コンピュータ技術や解析技術、ネットワーク環境などの情報技術が著しく進展し、これらの情報技術を最大限に活用し社会基盤構造物の維持管理を合理的に行おうとする試みが近年各方面で急速に展開されている。日本をはじめとする欧米先進国では、社会基盤を支える施設などの社会資本ストックが質・量ともに急速に増大してきているため、社会資本のライフタイムマネジメントが必要となってきている。本シンポジウムでは、欧米および我国の第１人者を招き、最新の情報処理技術を援用した、社会資本ストックのライフタイムマネジメントについて紹介したものである。

本書が、構造物の維持管理業務に興味のある研究者、技術者を世界最先端の研究成果に触れる場とすることができ、長寿構造物を守る分野を魅力ある、生き生きとしたものとすることに役立つことを期待したい。

[In our country, because there are a huge number of civil infrastructure systems such as bridges, dams, tunnels, etc, it will be becoming a major social concern to develop an integrated lifetime management system for such infrastructures in the near future. The objective of the Symposium is to provide a forum to exchange and share experiences related to integrated lifetime management system for civil infrastructure systems combined with the latest information processing technologies and intelligent health monitoring techniques for the 21st Century.]

宮本文穂　教授　工学部知能情報システム工学科
TEL：0836－85－9530　E-mail：miyamoto@design.csse.yamaguchi-u.ac.jp



お知らせ

平成15年度山口大学業界・企業研究会

主催：学生支援センター・就職支援部

平成16年２月10日より恒例の「山口大学業界・企業研究会」を開催いたします。

業界・企業研究会とは、学生の皆さんの職業選択を支援するための研究会で、各社・各機関のご協力により開催します。今年度は２月10日から27日まで（ただし、土日祝日、入試等のため19日、24～26日を除く）の９日間の日程で、１教室に１社１コマ90分の時間にて、採用担当者にご説明をいただくものです（３教室並行開催予定)。職業との出会いの絶好の機会となります。学生の皆さんは積極的に参加して、幅広く業界･企業研究に取り組んでください。会場は吉田キャンパス・共通教育講義棟を予定です。

参加予定企業（１月15日現在）：

出光興産、岡村製作所、川鉄情報システム、国民生活金融公庫、島津製作所、大正製薬、東京海上火災保険、NTT西日本、日本食研、日本通運、日本郵政公社、日立金属、広島信用金庫、森永製菓、UFJ銀行、ローソン

ほか、多数より参加申込をいただいています。今後、追加・変更の可能性もあります。必ずホームページにて最新の情報を確認してください。

学生の参加は事前申込方式をとっています。山口大学ホームページより【就職情報】→【学生向け就職情報】→【業界企業研究会受付】を選択し、以下の手順でログインをしてから参加の申し込みをしてください。

業界・企業研究会受付システムの利用方法－学生側機能－

学生側機能では以下のようなことが行えます。

- ■ 企業研究会への参加予約
- ■ 企業研究会の参加予約状況の表示
- ■ 企業研究会の参加キャンセル
- ■ 連絡先情報の登録と更新

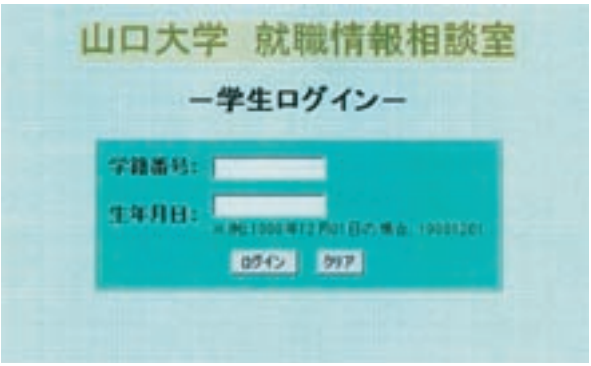
これらの機能を使用するためには、学籍番号と生年月日をログイン画面で 入力する必要があります。『学生ログイン』をクリックすると次のような画面が現れます。

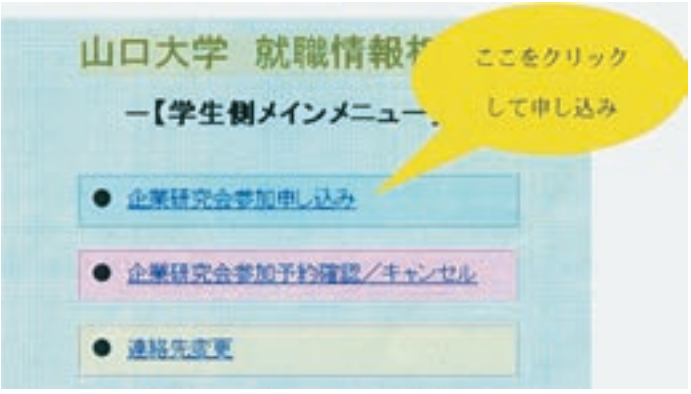
自分の学籍番号と生年月日を入力して（いずれも半角英数)、ログインを行ってください。ログインが完了すると、以下のメインメニュー画面が表示されます。

【企業研究会参加申し込み】をクリックすると、その時点で登録されている開催情報一覧が表示されます。 このとき右上の開催月を「2004年２月」としてください。

参加を希望する研究会の開催番号をクリックすると詳細情報、予約入力情報が表示されます。

【この研究会に参加予約する】をクリックすると、この企業の研究会への参加予約ができます。





図書館常設展示

日本の近代化に貢献した人々

長州五傑と同じ時代を生きた人たち

長州五傑が活躍した明治時代には、他にも様々な山口県出身の人物が日本の近代化に貢献してきました。今回の常設展示では、その中でも4人の人物に焦点を当て、関連資料を展示します。

福政図書館長オススメ！

Ichisuke Fujioka

藤岡市助

岩国市出身。明治時代の電気工学者で、日本のエジソン・電気界の父と呼ばれる。日本で最初の電灯、電気鉄道等を設計する。東京電気、東京電気株式会社（現在の東芝）の創設者である。

Toukuma Katayama

片山東熊

萩市出身。明治時代の建築家で宮廷建築の大御所。東宮御所（現在の迎賓館）は彼の代表作である。奈良国立博物館、京都国立博物館も彼が手がけた建物である。

Taizou Masaki

正木退蔵

萩市出身。吉田松陰の教え子で、主に工業教育に力を注いだ人物。東京職工学校（現在の東京工業大学）の初代校長を務めた。小説家スティーヴンスンに松陰のことを伝えた人物。

Akiyoshi Yamada

山田顕義

萩市出身。大村益次郎の教えを受けた人物で、日本の近代法の基礎を確立した。日本大学の前身である日本法律学校、及び国学院大学の創始者でもある。初代司法大臣。

平野副学長オススメ！

Seiri Tamano

玉乃世履

岩国市出身。明治初期に初代の大審院長（現在の最高裁判所長官に相当）となった。剛毅果断、清廉潔白な玉乃は、その公正な裁きにより「明治の大岡」と賞賛された。

期間：平成16年1月8日（木）～

場所：附属図書館情報ラウンジ前

新聞掲載された山大・地域から見た山大

9月

◆ 日本国立山口大学纐纈厚教授
有事法制成立によって軍事大国化への道開く
（雪峰新聞「韓国の新聞」：20日）

11月

◆「足裏温熱で安眠」　－小郡－
教授ら新技術研究発表　農学部松下一信教授
（山口：１日）

◆ 超音波・電磁波による非破壊検査システムを開発
トンネル危険度計測　工学部田中正吾教授
（中国：３日・読売：12日）

◆ フリマやライブ学園祭にぎあう　－山口大－
（山口：５日）

◆ 一緒に育てた米でもちつき　－阿東・生雲小
山大生と楽しく交流
（山口：９日）

◆ 13日、山口大でドイツ総領事　講演会
（サンデー山口：８日）

◆ 医療IT化へNPO　山口大病院など30団体参画
遠隔診断を支援　（日経：８日）

◆ 談話　山大人文学部・纐纈厚教授（政治学）
低投票率の理由　「無関心」だけではない
（山口：11日）

◆ マンドリンの音色で癒されよう
24日、山大定期演奏会
（サンデー山口：12日、朝日：15日）

◆「私の国は家族がお年寄りを大切にする」
－山口大のボさん－
留学生ベトナム語る　（中国：13日）

◆ 国立大の独立行政法人化　九州・山口
メーンバンク選定が本格化
コストの安さを重視（大学側）
融資などの業務期待（銀行側）
（読売：13日）

◆ 山大生３分の２棄権
衆院選　経済学部教授、150人調査
（読売：14日）

◆ 手話によるろう文化
－きょう、山大で講演会－
“ろう者の世界”　（サンデー山口：14日）

◆ 山大と連携の次世代医療機器
事業創出目標1880億円
県、実用化加速へ
（山口・中国・日経：15日、西日本：19日、山口・読売：20日）

◆ 学園祭に遊び学生見直した　（朝日：15日）

◆ 病院外心停止症例は261件
ウツタインプロジェクト
山口大医学部と消防本部が共同研究
救急隊員到着まで　市民の蘇生協力が重要
（宇部時報：14日）

◆ 山口大学吟詠部
23日市民会館で発表会
（サンデー山口：19日）

◆ 山大で講演会
「インパクトと私たちの未来」
（サンデー山口：19日）

◆ 肝硬変　山大が機能再生治療
骨髄細胞注入　新たな肝細胞に
（夕刊朝日：18日、山口・中国・毎日・中国・宇部・防長：19日、西日本：20日）

◆ 女性医療の国際シンポ
山大医学部で22日　（朝日：20日）

◆ 農薬について　あす、みやの大学講座
農学部古賀大三教授　（サンデー山口：21日）

新聞掲載された山大・地域から見た山大

◆ 就職難の突破最前線に学べ
山口大３・４年生交流計画
講演や情報交換の場
（中国：21日、防長：27日）

◆ 香川に隕石クレーター
山口大三浦保範助教授直径８キロ確認
（朝日：22日、防長：25日）

◆ キャンパス全面禁煙に
山大、来春から
（山口：24日、毎日：26日、読売：27日）

◆「鏡と窓」展　山口大学文化会写真部
22日から市民会館展示ホール　（山口：21日）

◆ 首長、学長らが「山口まち大学会議」
来年10月に学園都市サミット
「参加体験型に」　（山口：22日）

◆ 山大混声合唱団演奏会
12月６日、県教育会館で
（サンデー山口：22日）

◆ 独立法人化後の中期目標を了承
－山大運営諮問会議－　（山口：27日）

12月

◆ 北京師範大に事務所
山口大検討　人的交流を促進へ
（中国：３日）

◆ 探鉱跡や歴史的建造物視察
豪の大学教授、宇部へ
市長表敬　（山口：４日）

◆ 第36回邦楽演奏会　－山口大邦楽部－
（朝日：４日、サンデー山口：６日）

◆ 日本語教育学会
講演・シンポを公開　－あす－
（サンデー山口：５日）

◆ きょう、山大ESSが
英語で演劇公演　（サンデー山口：６日）

◆ 教育フォーラム山口2003
－山口大学会館－　（朝日：11日）

◆ 山大の公開講演　－柳井であす開催－
（朝日：12日）

◆ ＮＰＯ・学生耕作隊
援農シニア隊員募集
活動の幅拡大　あすから説明会
－山口大大学院２年　近藤　紀子さん－
（西日本・日経：12日・読売：14日）

◆ 山大演劇部公演　「無責任な王国」
（サンデー山口：17日）

◆ 自衛隊イラク派遣　山大で討論会
賛成派教授　米との関係重視を
反対派教授　アジアで日本孤立
（山口・毎日・中国・読売：18日）

◆ 山大管弦楽団
23日に定期演奏会　（サンデー山口：19日）

◆ トンネル内のコンクリ異常
瞬時、高精度に検討診断
山大が実証実験成功　（山口：19日）

◆ 中国国立大の美術・音楽
あすまで山口に集結　（山口：20日）

原稿をお寄せ下さい

広報誌は、学内だけでなく、山口県内の高校以上の教育機関、地方自治体及び主として、中国・四国地区の企業等学内外の約500の機関に配布します。

ア．Q&A欄について

山口大学についての質問をお寄せください。質問は、お名前、所属、職（学生の場合は学年）、年齢を付して文書でお願いします。Q&A欄に採用させていただくときには、字数などの関係で文章を一部修正させていただくことがありますのでご了承ください。学外からの質問を歓迎します。

イ．催し物について

公開講座、学会、研究会等の開催計画がありましたら、日時、場所、名称、責任者氏名、所属、電話番号などをお知らせ下さい。

ウ．「私の授業」「私の研究」「国際交流」「山口大学の将来についての提言」など

「私の授業」「私の研究」では、日頃おやりになっていることを、高校生にもわかるように、やさしく述べていただければと存じます。また、昨今、大学の将来についての関心が高くなっています。そこで、山口大学の将来あるべき姿について、学内外から原稿をいただければ幸いです。建設的なご意見を期待します。

【執筆要項】

上記ウについて、執筆要項は次のとおりです。

1．原稿（図、表を含む。）は40字×40行で、できるだけパソコンでお願いします。第１行は題名、２行目は氏名、所属部局名、研究室あるいは講座名、職、本文は４行目から始めてください。本文は３～４に区分し、小見出しをつけて下さい。

読者が連絡や質問をされる場合に便利かと思いますので、お差し支えなければ、原稿の末尾に研究室などの電話番号を括弧書きにしてください。

原稿は次のような形になります。

パソコンを用いない場合は、400字詰原稿用紙４枚以内で、パソコンの場合の要領に準じてお願いします。パソコンで原稿を作成された場合、お差し支えなければ原稿と一緒にフロッピーをお貸しいただければ幸甚に存じます。

第１行　題名
第２行　氏名、所属部局名、研究室名、職
第３行　（空白）
第４行　本文始まり
・
・
第40行　本文終わり
（TEL＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

2．ご自分が写っている写真を１枚と本文に関連する写真も添付してください。研究や授業の場面の写真を歓迎します。

原稿には締切期限を設けません。適宜、下記までお送りください。そのほか、種々のお問い合せも下記まで。また、原稿は E-mail で送っていただいても結構です。

〒753－8511
山口市大字吉田1677-1
山口大学総務部総務課（総務課広報室）
広報・調査係長　後藤　明利
TEL.083-933－5007　FAX.083-933-5013
E-mail:SH011@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

編集後記

いよいよ国立大学の「法人化」移行が目前に迫ってきました。今後は、教育・研究力、ブランド力、財務力、運営力などの指標を総合して大学の格付けが行われるということで、何がどう変わるのか、あるいはどう変わればよいのか等々不安は尽きません。本号では、前回の衆議院選挙で一挙に広まり、昨年の流行語大賞にも選ばれた言葉でもある「マニフェスト」を借りて、「国立大学法人　山口大学」が“動き出す”前夜の施政方針を、中期目標・中期計画に基づいて語ってもらいました。このようなある意味でセンセーショナルな企画に読者である皆さんが惹きつけられていただき、大いに議論が盛り上がることを期待します。このような議論を通じて、「国立大学法人　山口大学」が優秀な若い学生・研究者を惹きつけ、一度や二度の失敗にめげることなく新たな手法を見いだして確実に前へ前へと進んでいくスピリットを持つことによって、生き生きとした大学にすることが大事になってくると考えています。本号が、オンリーワンで個性輝く大学への変身への一助となれば大変幸いです。

工学部　知能情報システム工学科　教授　宮本文穂

◎山口大学ホームページ http://www.yamaguchi-u.ac.jp/index_j.html

山口大学広報第六十九号

平成十六年一月二十日発行

編集発行　山口大学広報委員会

（総務部　総務課　広報室）

住　所　山口市大字吉田一六七七―一

電　話　（083）933―5007

FAX　（083）933―5013

E-mail　SHO11@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

印　刷　株式会社 ふじたプリント社

広報活動専門委員会委員

小谷　典子（委員長　人文学部）
坪郷　英彦（人文学部）
福田　隆眞（教育学部）
マルク・レール（経済学部）
小宮　克弘（理学部）
高橋　睦夫（医学部）
宮本　文穂（工学部）
横山　和平（農学部）
野島　真治（附属病院）

専門委員

堀江　穆（アドミッションセンター）
熊谷　武洋（教育学部）
木下　武志（工学部）
杉井　学（メディア基盤センター）